

(第7号様式の2)

事業報告書

(※必要に応じて枠を広げてご記入ください。)

1 事業名	ワクワクゆんたくカフェ(多世代交流型カフェ)
2 事業期間	令和6年6月～令和7年2月
3 事業内容	具体的な内容(いつどこで何を実施したか等) 活動内容:毎月異なるテーマの学びの場を提供する多世代交流ができるカフェの開催 活動日時:毎月第2月曜日 午後2時～4時開催(祝日を含む) 活動場所:繁多川市営住宅自治会室 対象者:高齢者、障害者、地域住民問わず。乳幼児と母親 6月10日「スマホのお困り解決します」講師:森根武志 参加者 18 人 関係機関*¹の参加 6 人 7月8日「健康を維持するための『水』」講師:近藤寿美(管理栄養士) 参加者 16 人 8月12日「懐かしの沖縄の映像を見よう」YouTube 視聴 参加者 20 人 9月9日「高齢者をねらうサギ」講師:儀武 那覇市市民生活安全課 参加者 17 人 10月14日「健康で賢く食べよう～気になる油と塩分」 講師:金城みなみ(那覇市保健所 管理栄養士) 参加者 25 人 11月11日「みんなの食堂から見えたこと」 講師:野原郁美(ワクワクゆんたく食堂代表) 参加者 23 人 関係機関の参加 2 人 12月9日「薬膳でカゼ対策」講師:横矢 明子(中医薬膳師) 参加者 18 人 関係機関の参加 3 人 1月13日「私がベビーミルク支援を行っている理由」 講師:高良 久美子(社団法人つむぎ代表) 参加者 19 人

	2月10日「運動と栄養」 講師：金城 みなみ(那覇市保健所) 笠原 寛子(健康運動指導士) 参加者 18 人 関係機関の参加 3 人 *1 わくわくゆんたく食堂、社会福祉協議会、地域包括支援センター支援員、那覇市保健所、那覇市市民生活安全課、真和志第3民協			
4達成目標と達成度	達成目標(事業計画書と連携させる)	目標数値	実績値	達成度(%)
	・カフェを月1回開催する	9回	9回	100
	・参加人数を増やしていく	10人	平均 19 人	100
	・認知症サポーターを要請する	1人以上	1人	100
	<u>結果に至る理由、気づき、検証等</u> ・多世代間交流は、平日開催のため高齢者が主となった。 ・祝日も開催し普段参加できない初めての方の参加もあった。 ・カフェ(認知症・シングルマザー)への理解が深まり、気になる方の見守りにつながった。 ・カフェの開催で、外出機会が増え、コミュニティが広がった。 ・シングルマザーの物資の支援が 4 件できた。ベビーカーや、チャイルドシート貸し出しに協力・ベビー服の譲渡ができた。			
5事業の成果	<u>対象者に及ぼした影響</u> ・引きこもりがちな参加者が自治会室に気軽に足を運びユンタクする機会が増えた。 ・様々な講師の招へいで、楽しい学びの場ができた。特に那覇市保健所の「油と塩分」の具体的な講話は、自身の健康だけでなく、子どもや、孫たちにも話を聞かせたいなどの声が上がった。「高齢者のサギ」の回では、不審な電話を受けたことのある参加者の方の話で身近に起こることを知り話が盛り上がりました。皆さん口々に、お隣近所とのお付き合い、日ごろの声掛けが大事さあ、と口々にされました。 ・地域包括支援センター、民生委員などの地域の見守りを担う方々とながり、生活困窮世帯への物資の支援ができた。「生活保護の内容についての説明を受けることができて助かりました。」「家族の介護の相談、自身の介護について相談でき、安心した」との声がありました。 ・講話の内容を一月前には告知をしており、掲示板の前で、あなたも参加しない？と声かけたり、ふれあいデイサービス、わくわくゆんたく食堂の際に誘い合ったりする光景が見られた。			

5事業の成果	連携機関、協力者に及ぼした影響 ・民生委員と連携ができ、困りごとを抱えた世帯へ繋ぐことができた。担当民生委員さんは、初めて委嘱された方で、どこを見守ればいいのか分からないという状況が解消されたとお互い安心しました。 ・気になる世帯・人について情報を集約し、関係機関との個々のケースについて検討できる会議が開催できるようになり、住民の情報が共有できるようになった。(生活困窮・介護の問題・独居の不安など) ・地域包括センターはんたがわと連携でき情報共有を共有し、早い見守りにつながりました。 ・カフェ開催していく中で、「見守り」の必要性が高まり、社会福祉協議会の協力で「見守り隊」の結成に至った。10月9日結成 ・公的機関(役所・保健所など)には専門職がいるため、地域に専門職を派遣し、有益な情報届けたりすることのできる、地域とつながる場が増えた。 地域、コミュニティに及ぼした影響 ・「見守り隊」の結成ができたこと。 ・高齢の新入居世帯の方は、慣れない場所で不安を感じていましたが、カフェへの参加をきっかけに、顔見知りができ、デイサービス、食堂など他の自治会活動へも積極的に参加している。 ・自治会に関心を持たなかった方が、講話の内容に興味を持ち参加した。自治会の活動にも理解を寄せ、自治会費の納入にも協力いただけるようになった。 ・気になる利用者の情報を、カフェ終了後にスタッフで共有し、個別支援会議を行うなど、カフェが市営住宅に居住している高齢者の居場所だけでなく見守りの場として地域での役割を担えるようになった事。
6次年度以降の展開	(ビジョンを見据えたうえで次年度以降に予定している展開) ・カフェの月1回の開催継続 ・各種プログラム、「百歳体操」などの健康づくりの実施 ・子どもから高齢者まで多世代で取り組み楽しめるイベントづくり。(検討中)

7
実施した事業全
体への自己評価
とその理由

①自己評価(5段階評価)

当てはまるところに○をつけてください。

	とても良かった 5	良かった 4	まあまあ良かった 3	少し良かった 2	全く良くなかった 1
1 課題設定は良かったか	☒				
2 解決策として良い手法だったか	☒				
3 自団体の実施体制は良かったか	☒				
4 他団体との協働体制は良かったか	☒				
5 対象者への周知は良かったか		☒			

②上記の結果となった理由について

- ・参加者に喜んでもらったこと。
- ・コミュニティーが広がった。まだ知らない住人がいたが、つながることができた。
- ・引きこもりがちな方も、誘い合わせて楽しく参加してもらえた。
- ・初めて自治会活動に参加された方がいたこと。
- ・気になる方を、参加者が率先して誘いに行ったこと。
- ・シングルマザーへの周知が少なかった。

8 市への要望・ 欲しい支援等	なは市民活動支援事業に係る下記の項目に対して (①事業説明会 ②個別相談 ③募集期間 ④広報支援 ⑤オープンデータ 等) ・①助成金を受けるということは、ハードルが高いと思ったが、説明を受けることで、理解ができてきた。 ・②担当者の細かい配慮があり助かりました。 ・③告知を年度末ごろから案内があれば早めに検討できるかも。 ・④広報支援で担当者が配置されていて心強い。 ・⑤公的文章などは、苦手で支援がなければ仕上げられない。 その他 ・講師料の源泉徴収などについては、もう少し詳しく説明があった方がよい。 ・応募団体の交流会などは、お互いのネットワークを広げるためにもよかった。
--------------------------------	---